

倒伏注意！穂肥は適切に

曇雨天傾向が続いたため草丈が伸び、葉色は濃くほ場間差が大きい状況です。倒伏しないように適切な穂肥診断が必要です。

コシヒカリの出穂期は「平年より2日程度早い」見込みです。

1 7月10日現在のコシヒカリ生育状況(拠点9地点平均、移植日平均5月9日)

草丈(長) 茎数(多) 葉数の進み(やや早) 葉色(濃、褪色鈍く、バラツキ大)

	本 年 値	指標比・差	前年比・差
草 丈 (cm)	71	113%	102%
茎 数 (本/㎡)	553	115%	105%
葉 数 (葉)	11.4	+0.4	+0.2
葉色 (SPAD 値)	38.7	+2.7	+1.8

2 コシヒカリの管理ポイント

(1) 分施の穂肥(1回目：出穂期20日前、2回目：出穂期12～10日前)

ア 出穂がやや早まる見込みのため、穂肥が遅れないよう注意する。

イ 出穂期の20日前頃の草丈が長く(75cm以上)葉色が並～淡い場合、施用量を減らし2～3日程度遅らせる。草丈が長く葉色が濃い場合は施用しない。

ウ 2回目の穂肥は「必ず施用」する(1回目ができない場合でも)。

(2) 一発基肥の追肥(出穂期12～10日前)

ア 生育が次のような場合、追肥を施用する。

早期梅雨明けや猛暑等により葉色が著しく低下する場合(葉色板3.3以下、SPAD値30以下)

※ 詳しくは、佐渡米カレンダー(7月)を参照。

減減栽培では化学窒素成分量の超過に注意。

3 その他の管理ポイント

(1) 中干しは出穂期の30日前をめやすに終了する。中干し開始が遅かったほ場でも、幼穂形成期(出穂期の23～25日前)には中干しを終了し間断かん水から飽水管理に移行する。

(2) 高温年は斑点米の多発が懸念されるので、一斉草刈り期間中(7/14～26)に必ず草刈りを実施する。